

いざ、都大路へ

「第68回全国高校駅伝」の県予選会は10月19日、花巻市の花巻ハーフマラソンコース(7区間、42.195km)で行われた。

一関学院は序盤からトップを独走。4、7区では区間新をマークし、2時間8分10秒で23年連続27度目の優勝を決めた。

12月24日に京都府で行われる全国大会を前に、下館真樹主将(3年)は「目標は8位入賞。県予選でも区間新を出せたことは自信につながった」と話し、千葉裕司監督は「目標に向けて、7人全員が力を発揮することが大事。各区間でとりこぼしなく走らせたい」と前を見据えた。(取材日・12月7日)

The Challengers ★ Elder
4

【駅伝】 一関学院 陸上競技部

●監督 千葉裕司 ●主将 下館真樹 ●部員 15人



【バレー】 Nishika & Nazomi 木村仁知翔・蜂谷希美

都道府県の選抜チームが集い、日本一を競う「全国都道府県対抗中学校バレーボール大会」(JOC)。岩手県選抜チームに市内の中学生が抜てきされた。

選ばれたのは木村仁知翔選手(桜町中3年)と蜂谷希美選手(萩荘中3年)の2人。2年連続の選抜入りで、県の主将も担う木村選手は「コンビバレーで攻める。コート上で精いっぱい仲間を支えたい」と決意を語り、蜂谷選手は「得意のサーブで得点したい。どんなボールにも食らいついていく」と活躍を誓った。全国での目標については「ベスト8以上」と口をそろえた。

全国大会は12月25日から大阪府大阪市のエディオンアリーナ大阪で行われる。(取材日・11月27日)

The Challengers ★ Kyudo
5

【弓道】 Sato Shunpei 佐藤駿平

弓道の全国高校選抜大会県予選決勝は10月21日、盛岡市の県営武道館弓道場で行われた。男子個人は一関工業の佐藤駿平選手(2年)が11中(12射)で優勝。全国への切符を手にした。

12月24日から滋賀県大津市のウカルちゃんアリーナ(県立武道館)で行われる全国大会に向け、佐藤選手は「目標はベスト8入り。美しい姿勢を心掛け、魅せる弓道をしたい」と静かな闘志を燃やしている。本望智英監督は「的中で感じる感覚が鋭い選手。練習通り、気負わずに落ち着いて試合に臨んでほしい」と活躍に期待を寄せた。(取材日・12月4日)

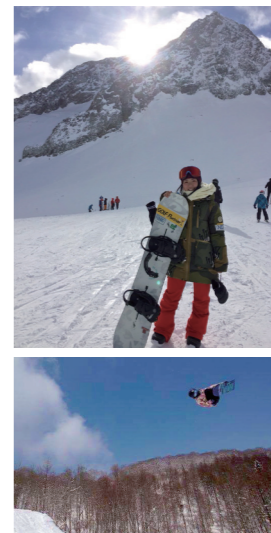


The Challengers ★ Snowboard
3

【スノーボード】

岩渕麗楽 Iwabuchi Reira

スノーボード W 杯で快挙達成だ。15歳の女子高中生ライダーが、世界の頂点に立った。夢のオリンピックが、すぐそこまで見えてきた。



PROFILE
2001年、東山町長坂生まれ。4歳からスノーボードを始め、13歳でプロ資格を取得。全日本スキー連盟の強化指定選手/市のトップアスリート育成強化事業認定選手。趣味はお菓子作り。



金狙う (岩渕)

平昌五輪で

ともあったが、ひたすらトレーニングに打ち込むことで乗り越えてきた。2017年は国内外の大会で優勝するなど、着実に成長を遂げてきた。9月のW杯では4位に入賞したが「もつと上に行けた」と悔しげな表情を浮かべていた。平日は放課後、トレーナーと市内のジムで筋力を鍛え、休日は宮城県村田町の練習場で汗を流す。より高みを目指すストイックさが成長の原動力になっている。

底知れぬ実力と高まる期待
練習中ではあるが、女子としては最高難度の競技「バックサイド・ダブルコーク1080」(縦2回転・横3回転)も5月に成功させている。潜在能力は計り知れない。W杯優勝を達成し、いよいよ大舞台が見えてきた。平昌五輪出場と優勝の夢がかなえば、史上最年少金メダリストとなる。149センチの小柄な体に、飛躍への期待が高まっている。

■岩渕選手の2017年の主な競技実績

月日	競技など	成績
3月4日	スノーボードビッグエア尾瀬戸倉カップ	優勝
3月8日	スノーボードスロープスタイル尾瀬戸倉カップ	優勝
4月1日	世界ジュニア選手権スロープスタイル	準優勝
4月1日	世界ジュニア選手権ビッグエア	準優勝
9月4日	ワールドカップスロープスタイル	4位

*ビッグエア…急斜面を滑走し、踏切台から空中に飛び出してエア(技)を見せる競技

*スロープスタイル…コース上の障害物を攻略しながら空中技を繰り出す競技。総合的な滑走技術が採点の対象